

萩市企業景況調査

DI方式

平成22年10月～12月期 実績
平成23年 1月～ 3月期 予測

DI (ディフュージョン・インデックス) 方式とは？

DIは各調査項目について判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値は景気の上向き傾向(「良い」)の回答割合が多いことを示し、マイナスの値は景気の下向き傾向(「悪い」)の回答割合が多いことを示す。

◎DI = (増加・好転など「良い」の回答割合) - (減少・悪化など「悪い」の回答割合)

※設備投資は割合(%)

《調査機関》萩商工会議所

業況、業種間でバラツキ。

—人口減少など先行きに不安感—

景況の概要

平成23年1月実施の景況調査の集計結果は以下のとおり。(調査対象企業：萩市内60社、回収率92%)

生産・売上 前期比DIは公共工事や年末需要などで建設業・製造業などが増加(全業種平均+14.5ポイント)。前年同期比では業種間でバラツキが見られる(全業種平均▲18.2ポイント)。今後(1～3月期)の見通しでは、閑散期など季節的要因もあり全業種で減少(平均▲65.5ポイント)すると予想(回答)。

収益 収益(経常利益)も生産・売上で同様に、総じて、厳しい回答結果となっている。消費者の節約志向に加え、同業他社との価格競争などで利益が圧迫されている。

資金繰り 建設業は改善、他の業種は悪化。見通しも含め厳しさが続いている。

従業員数 建設業・製造業・小売業は人員不足、他の業種は人員過剰にあるとしている。

経営上の問題点 ①需要の停滞 59.3% ②同業他社との競争激化 14.8% ③大型店等の進出による競争激化・人材の確保難 5.6%の順などとなっているほか、仕入れ価格の上昇などが挙がっている。

今後の業界動向 各業界の景気見通しは、先行き不安感などから全業種で悪化(平均▲70.9ポイント)すると予想。特に、小売業・観光関連業・製造業などの停滞予想が目立っている。

景況に関する生の声 ■建設業 人口減少、公共工事減少で厳しい状況。地産地消徹底を希望(電気工事)。
■製造業 不景気で受注が厳しい(印刷)。原料の入荷が少ない、外国に買付けされている状況である(水産加工)。インターネット販売による価格破壊、業界も倒産が多く出ている(印刷)。安価な商品でないと売れない。観光客増加したが、客単価が低い(水産加工)。
■卸売業 漁獲量の減少に伴い単価上昇(鮮魚卸)。小売店の減少に伴い売上が減少(ポン酢卸)。
■小売業 人口減少(家具店)。
■観光関連業 購買意欲がさらに低下(悪化)しているようだ(萩焼店)。市内販売に期待できないため、首都圏域での販路拡大に努めている(工房)。今年は国体などで、少し上向くものと思う(ホテル)。

項目 / 業種		建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	観光関連業	平均	前年平均	前々年平均
生産・売上	前期比	33.3	33.3	▲10.0	0.0	20.0	12.5	14.5	0.0	6.8
	前年同期比	11.1	11.1	▲40.0	▲44.4	▲40.0	0.0	▲18.2	▲54.4	▲52.5
	23年1月～3月期見通し	▲33.3	▲88.9	▲60.0	▲55.6	▲70.0	▲87.5	▲65.5	▲47.4	▲64.4
収益	前期比	▲11.1	22.2	▲20.0	▲33.3	▲10.0	▲12.5	▲10.9	▲7.0	▲16.9
	前年同期比	▲11.1	0.0	▲40.0	▲44.4	▲40.0	▲12.5	▲25.5	▲43.9	▲52.5
	23年1月～3月期見通し	▲22.2	▲66.7	▲60.0	▲55.6	▲60.0	▲75.0	▲56.4	▲49.1	▲66.1
資金繰り	前期比	22.2	0.0	▲30.0	▲33.3	▲10.0	▲50.0	▲16.4	▲22.8	▲32.8
	23年1月～3月期見通し	▲22.2	▲55.6	▲30.0	▲33.3	▲30.0	▲75.0	▲40.0	▲33.3	▲43.9
従業員数 22年12月末		11.1	11.1	▲40.0	11.1	▲10.0	▲12.5	▲5.5	▲14.3	▲20.3
設備投資	(実績)	0.0	11.1	10.0	11.1	20.0	0.0	9.1	10.5	10.2
	(計画)	0.0	22.2	0.0	11.1	20.0	0.0	9.1	10.5	13.8
業界動向		▲55.6	▲77.8	▲60.0	▲88.9	▲60.0	▲87.5	▲70.9	▲64.3	▲86.4